

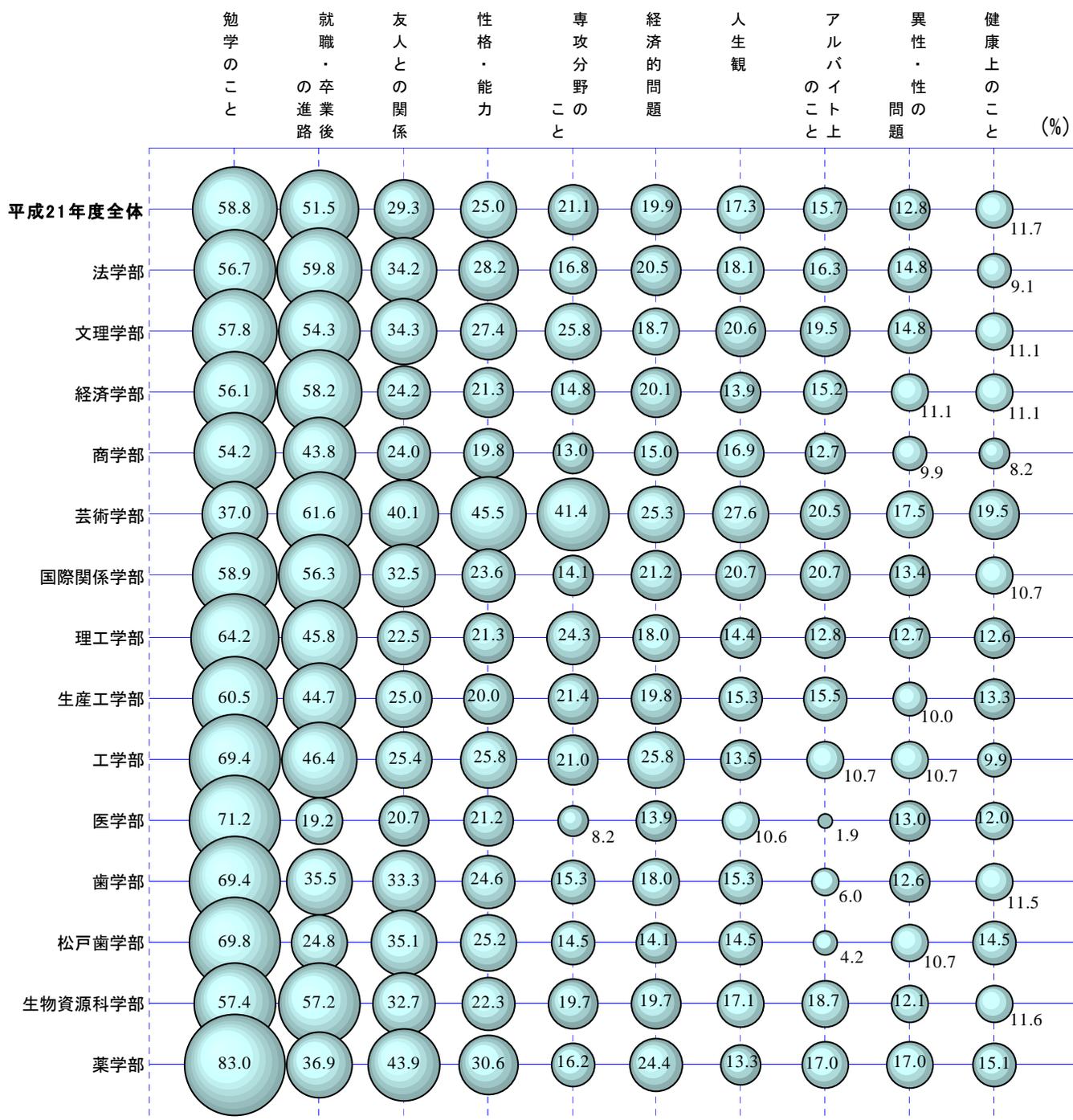
## 第5章 学生が抱える不安・悩み・トラブル

### 1.不安・悩み・トラブルの内容

日大生の不安・悩みは、「勉学のこと」が58.8%でトップ。「進路」が51.5%で続く。6年制移行になった薬学部は「勉学」が断トツ。芸術学部は多分野で悩み。

在学中に経験した不安・悩み・問題（トラブル）を全体で見ると、「勉学のこと」が58.8%で最も高く、「就職・卒業後の進路」が51.5%で続いています。本学学生にとって勉学と卒業後の進路が主要な不安・悩みとなっています。「友人との関係」が29.3%で3番目、次いで「性格・能力」(25.0%)、「専攻分野」(21.1%)となっており、「経済的問題」を挙げた学生も19.9%と少なくありません。

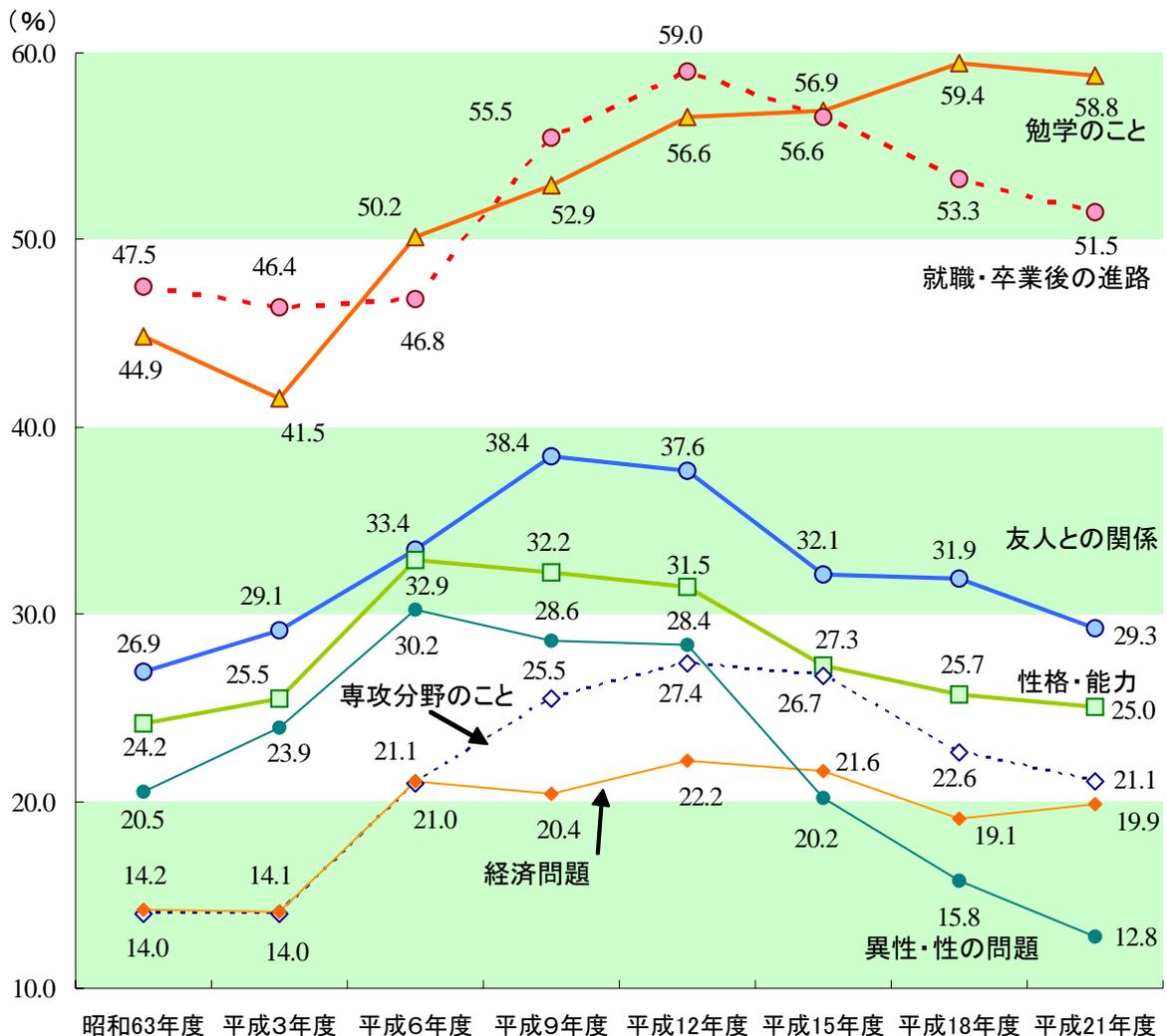
6年制に移行した薬学部では「勉学のこと」が83.0%で断トツとなっています。芸術学部では「就職・卒業後の進路」「性格・能力」「専攻分野」「人生観」「経済問題」「健康」の6項目で14学部中最も高くなっており、勉学以外の不安や悩みが多い点が目立っています。



## 2.不安・悩み・トラブルの内容—主なものの経年変化

「勉学」についての不安・悩みの増加傾向。他の悩みは減少傾向。  
勉学意識の高まり、交友関係の変化などを反映？

学生の抱える不安・悩み・問題（トラブル）の主なものの経年変化を見ると、「勉学のこと」が平成3年の41.5%から漸増し、3年前の調査時点より僅かに減少したものの18年間で17.3ポイント増加しています（全学部で15ポイント以上増、特に薬学部・文理学部・医学部・歯学部では25ポイント以上増）。「就職・卒業後の進路」は平成6年から平成12年まで急増し、学生の悩みのトップでしたが、平成12年度をピークに減少に転じ、9年間で7.5ポイント減で「勉学」を下回っています（商学部・生産工学部・松戸歯学部・医学部・理工学部で10ポイント以上減、歯学部のみ10ポイント増）。「友人との関係」は平成9年をピークに漸減傾向（医学部で20ポイント以上減と顕著）、また「異性・性の問題」は平成6年度をピークに大きく減少傾向を示しています。学内で一人で過ごす学生の増加などと共に、学生の交友関係が大きく変化してきていることがうかがえます。「性格・能力」も同様の傾向が表われていると言えます（国際関係学部では平成6年度から20ポイント以上減）。様々な手口の悪徳商法が横行する中、「経済問題（トラブル）」は平成6年度から20%前後で推移しています。総じて見ると、日大生全体の勉学意識の高まり、交友関係の変化などが、学生の抱える不安や悩みに影響を与えているものと思われます。



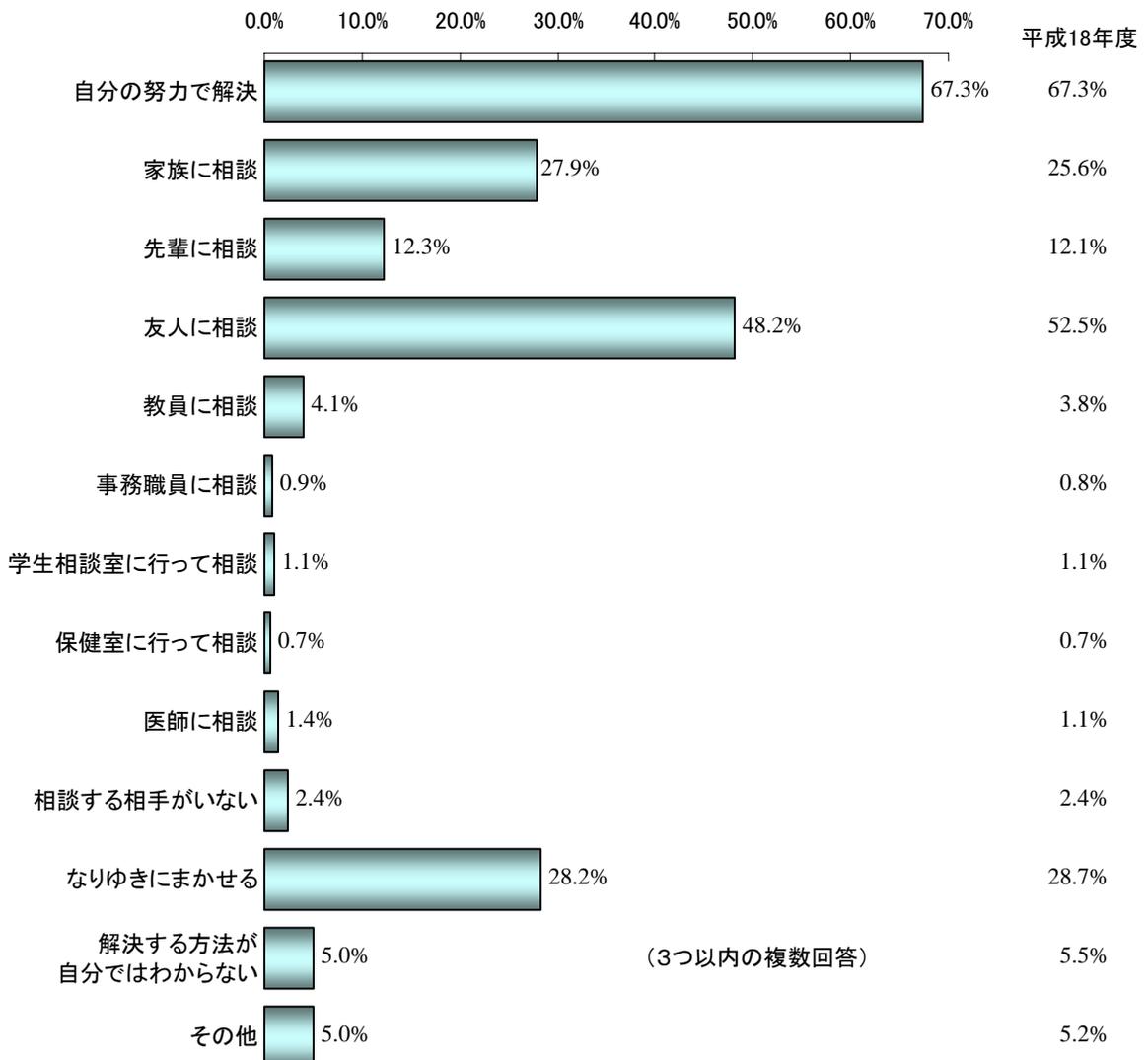
### 3.不安・悩み・トラブルの解決方法

不安・悩みは「自分の努力」で解決が3分の2。  
相談相手は友人、家族、先輩の順。3年前に比べ友人減少、家族増加。

不安・悩み・トラブルの解決方法（3つ以内の複数回答）について見ると、「自分の努力で解決」するが67.3%でトップとなっています。「友人に相談」が48.2%、「なりゆきにまかせる」が28.2%、「家族に相談」が27.9%、「先輩に相談」が12.3%が続いています。不安や悩みに対しては自助努力が主体となり、身近に感じる人に相談する傾向が見られます。

不安・悩みのトップは「勉強について」でしたが、教員に相談する学生は4.1%にとどまっています。相談相手として、医師、事務職員、学生相談室は1%前後となっており、大学関係者や窓口の活用率は低いと言えます。

前回（3年前）と比較すると、傾向は変わっていませんが、「友人に相談」が52.5%から4.3ポイント減少、「家族に相談」25.6%から2.3ポイント増加と相談相手に多少変化が見られます。

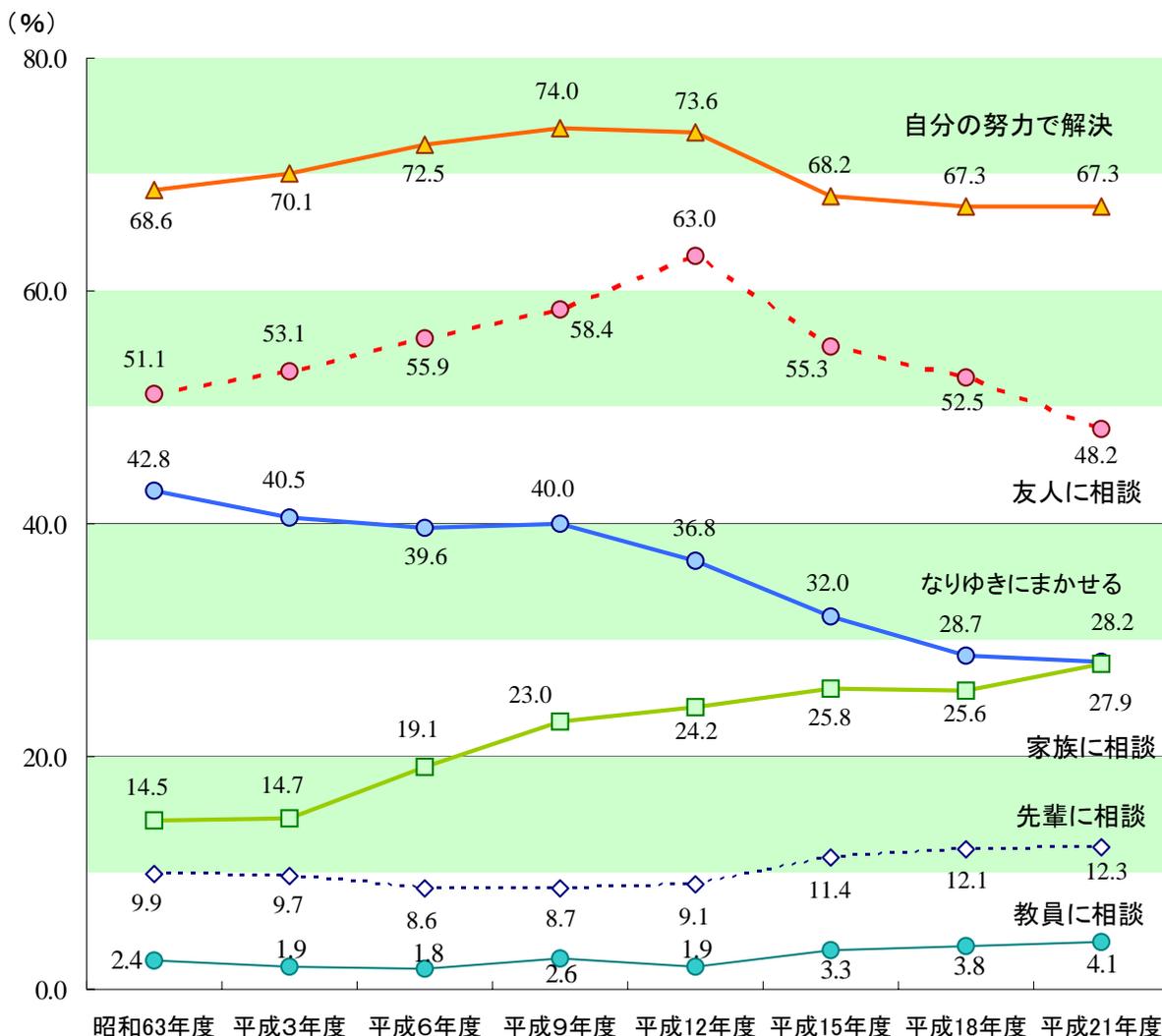


#### 4.不安・悩み・トラブルの解決方法—主な解決方法の経年変化

自助努力による解決となりゆきまかせが減少し、より信頼できる相談相手を選ぶ傾向。  
背景に学生の抱えている問題の複雑化？

経年変化を見ると、「自分の努力で解決」は平成9年度の74.0%をピークに6.7ポイント減、「なりゆきまかせ」は昭和63年度から年々減少しています。自助努力やなりゆきまかせでは解決できない、学生が抱える問題が複雑化しているといった背景が考えられます。

「友人に相談」は、一人であることが多い学生の増加傾向も影響して、平成12年度の63.0%から9年間で14.8ポイント減少しています（松戸歯学部・商学部・経済学部・生産工学部では20ポイント以上減）。一方、相談相手として「家族」は昭和63年度の14.5%から13.4ポイント増加しています（法学部は23.6ポイント増と顕著）。さらに「先輩」「教員」も微増傾向にあります。最近の傾向として、身内や経験があり信頼の置ける人に相談する必要性が増してきているのではないかと推察されます。

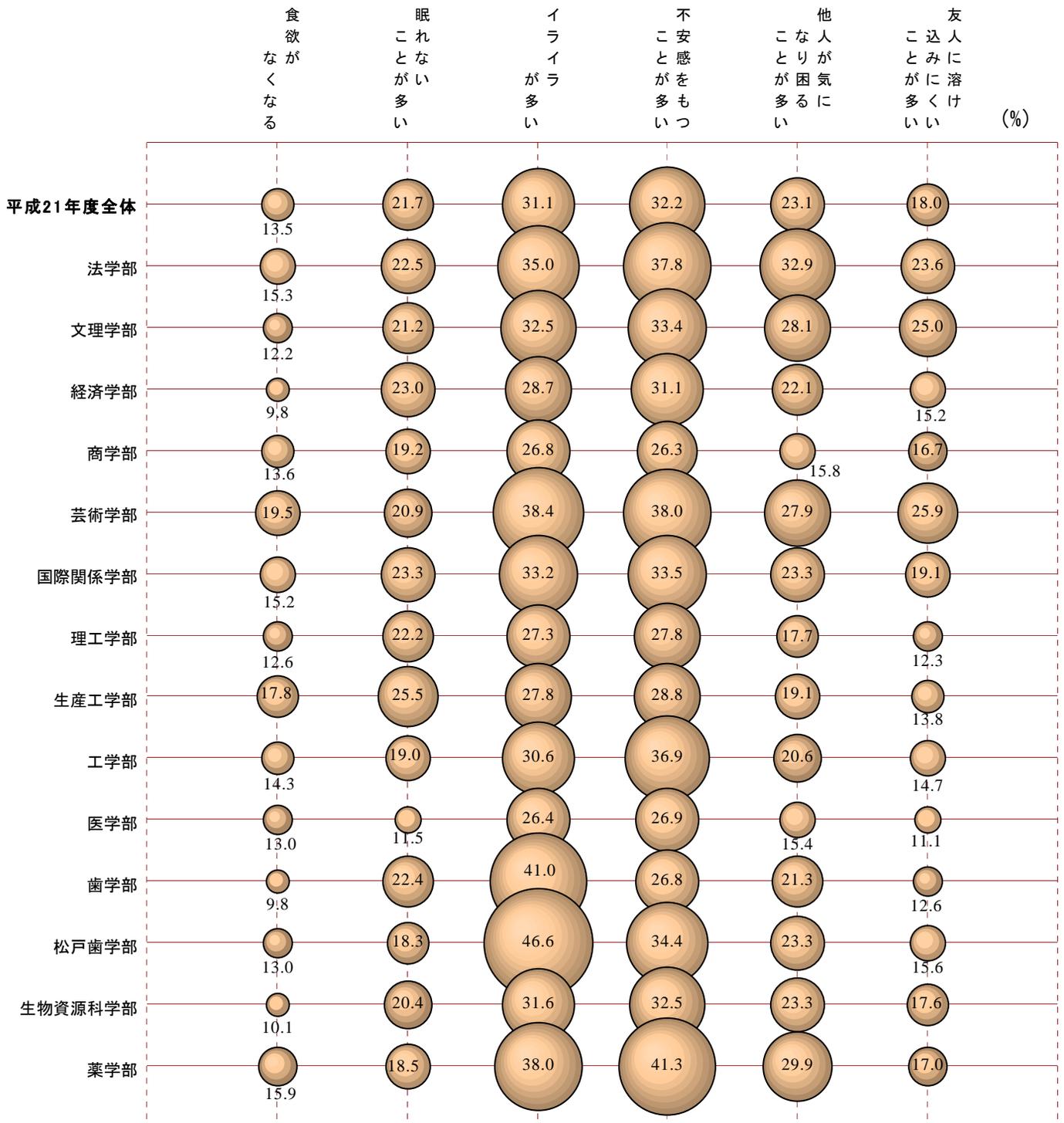


## 5.日常生活での不安感

日常生活に「不安感をもつことが多い」学生が32.2%、「イライラが多い」学生が31.1%。  
学部間で若干の差。不安感とイライラは薬学部、イライラは歯学部系の学生で高い傾向。

全体で見ると、日常生活に「不安感をもつことが多い」学生が32.2%、「イライラすることが多い」学生が31.1%、「他人が気になり困ることが多い」「眠れないことが多い」も20%台となっています。

学部間で若干差が見られ、「不安感」は薬学部が41.3%で最も高く、「イライラが多い」は歯学部系で40%以上、「他人が気になり困る」は法学部と薬学部が約30%と高くなっています。「眠れないことが多い」は医学部では11.5%ですが、他の学部では20%前後となっています。

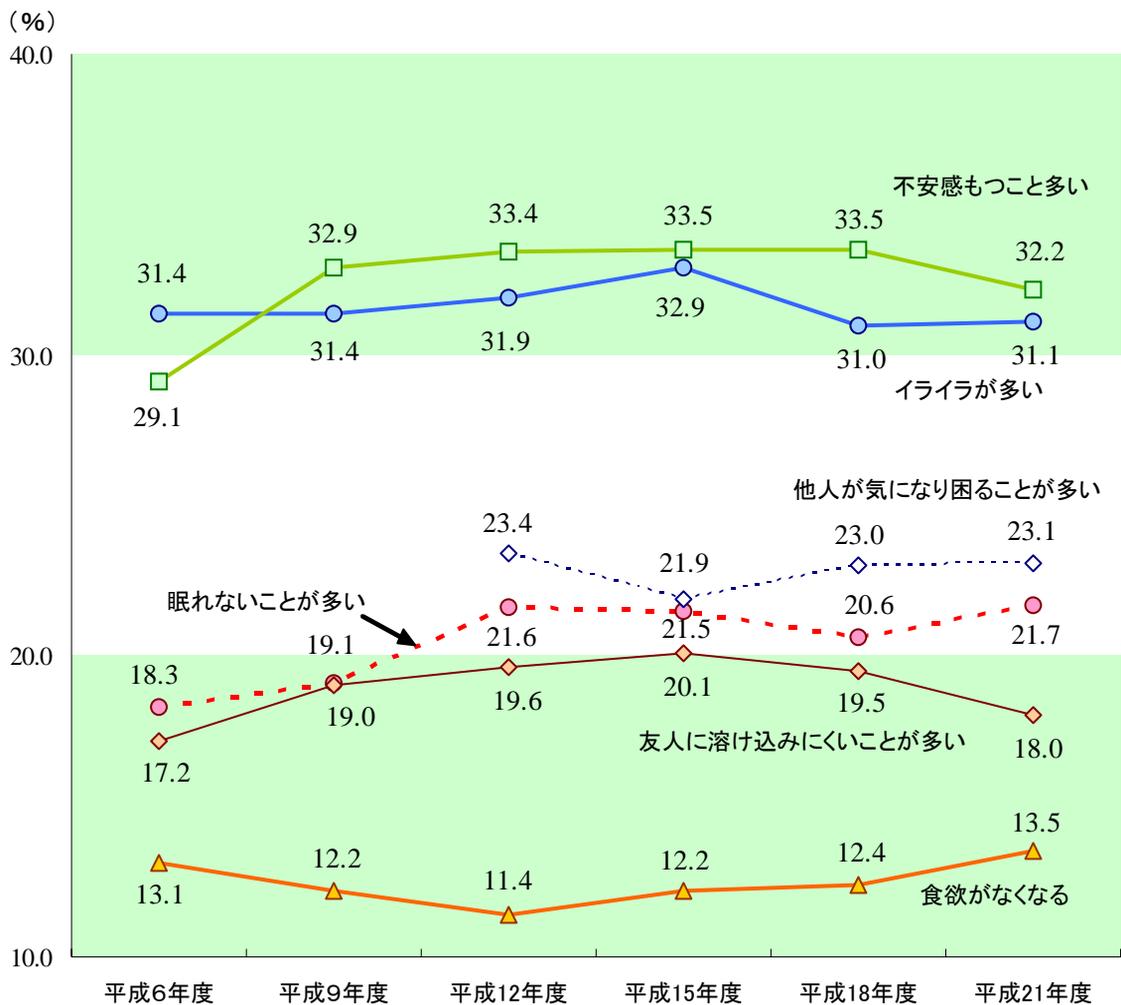


## 6. 日常生活での不安感－経年変化

12年間続いた「不安感」の増加傾向が減少に転じる。「イライラ」は横這い。社会状況が悪化するも、学生がメンタル面で抱く問題について目立った変化は見られない。

平成6年度からの経年変化を見ると、日常生活で「不安感をもつことが多い」学生が平成9年度に約4ポイント増加し、その後は横這いとなっていました。今回は3年前より1.3ポイント減とわずかですが減少に転じています。「イライラが多い」学生は平成6年度から30%強でほぼ横這い傾向となっています。平成6年度は「イライラ」が「不安感」をやや上回っていましたか、平成9年度以降は順位が逆転しています。

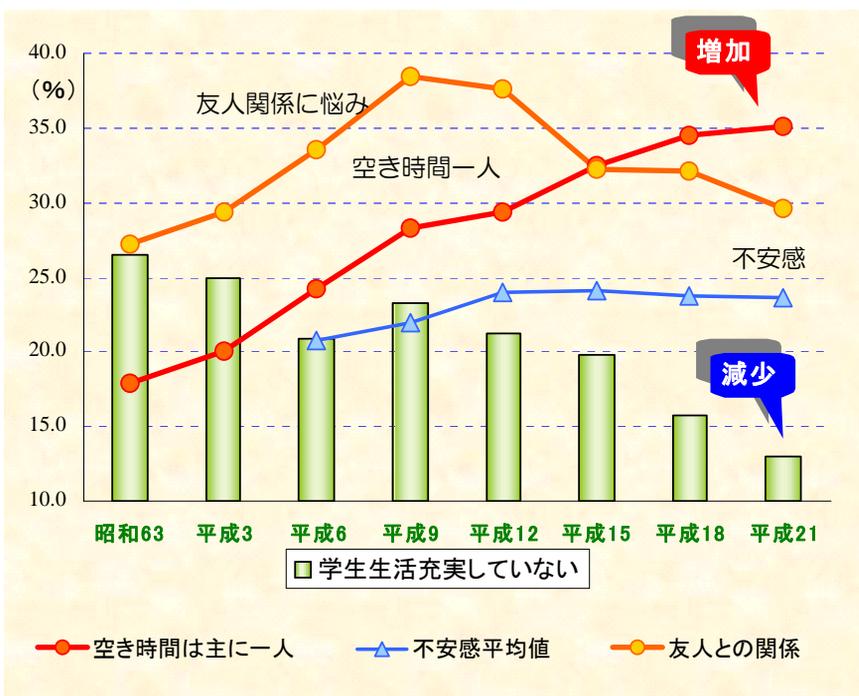
「他人が気になり困ることが多い」学生は、平成15年度にやや減少しましたが、その後増加に転じています。法学部では13.6ポイント上昇し32.9%になっています。「眠れないことが多い」学生は平成12年度の21.6%からほぼ横ばい傾向にあります。「友人に溶け込みにくいことが多い」学生は平成15年度をピークに減少傾向にあります。昨今、「振り込め詐欺、マルチ商法の横行、倫理観の欠如による殺傷事件」などの多発、長期に渡る経済不況による就職難など学生を取り巻く社会状況が悪化傾向にあっても、学生がメンタル面で抱く問題はあまり変化していません。



## 友人関係と学生生活の充実度

ここでは、友人などとの人間関係や学生生活の充実度を3年ごとの変化で見ます。

### 経年変化



前回調査より引き続き注目している項目のひとつに、空き時間に過ごす友達の数があります。「主に一人で過ごす」と答えた学生の比率は年々増えつづけ、平成21年には35.0%と、3人に1人以上が「一人で過ごす」ようです。このように、学生の孤立化が進んでいるかのように感じられる一方で、「友人関係」に不安や悩みを抱えている学生は平成12年から減少に転じています。「不安感」をもつ学生の比率も平成12年度をピークに横這いです。

コミュニケーションの方法が大きく変化しており、ライフスタイルや考え方がますます多様化している現在の風潮の中で、自分のしたいことをすることが重要視されているのかも知れません。その結果、学生生活の充実度が「充実していない」と回答した学生も年々減少し、マイペースながらも本当にやりたいことを見つけ、充実した生活を送ることが優先されるようになってきていると言えそうです。

※「不安感」とは:「食欲がなくなる」「眠れないことが多い」「イライラが多い」「不安感もつこと多い」「他人を気にして調和とれず」「友人に溶け込めない」この6つの項目の%の平均値。(表現に若干の変更あり)

※「学生生活充実していない」とは:「あまり充実していない」「全然充実していない」この2つの項目の%の合計値。

### 平成21年度学部別

#### 補足: 空き時間に過ごす友達の数

学部別に見ると、空き時間を主に一人で過ごす学生の割合が最も高いのは法学部で57.0%と6割近く、芸術学部も49.5%とほぼ5割です。さらに商学部や国際関係学部、経済学部も一人で過ごす学生の割合が高くなっています。

逆に空き時間を「主に4人以上で過ごす」という学生の割合が最も高いのは薬学部で、56.1%と前回調査より約9ポイントも増加しました。松戸歯学部も30.9%で9ポイント増加しました。工学系の3学部も30%以上と高くなっています。

全体的に18年度と比較すると学部ごとの特徴が鮮明になる傾向にあると言えます。

